

## 災害時 聴覚障害者の支援は？

北信越の障害者・手話通訳者らが大会

### 箕輪

第54回北信越ろうあ者大会、第38回北信越手話通訳問題研究集会が7日まで2日間、上伊那郡箕輪町文化センターを主会場に開かれた。長野、福井、石川、富山、新潟の5県の聴覚障害者や手話通訳者ら約320人が参加。災害時の聴覚障害者支援の在り方などに理解を深めた。

7日は「暮らし」「手話」などテーマごとに「考える集い」を開催。暮らしの集いでは、名古屋学院大と愛知学



院大の講師で、聴覚障害がある今村彩子さん(33)＝名古屋市＝が「東日本大震災 宮城の被災ろう者取材して」と題して手話で講演した＝写真。

映像作家としても活動する今村さんは、昨年3月下旬から被災地で取材を始め、映像にまとめた。津波警報が聞こえなくて避難できず、亡くなった聴覚障害者もいたといい「命に関わる情報はみんなが同じように受け取れるべきだ」と指摘。情報が放送で流れる避難所では「聴覚障害者は周囲の動きをいつも気にしていなければならず、心労が重なっていた」と振り返った。

他に、東日本大震災被災地で聴覚障害者を支援する団体の取り組み、ろう教育の歴史などについて講演があった。